

6-1

チームケア

家族ボランティア

家族と暮らす、特養施設

家族をマンパワーと考え、家族と共に利用者を支援する。

特別養護老人ホーム 弘済園

発表者：ケアワーカー 村田 雅夫	共同研究者：澤登 岳彦
所在地：東京都三鷹市下連雀 5-2-5	共同研究者：池田 裕子
TEL：0422-47-8965	E-mail：tokuyou_2f@kosaien.or.jp
FAX：0422-41-1783	URL：http://www.kosaien.or.jp/tokuyou

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	昭和31年に三鷹市に創立され、特別養護老人ホーム、居宅介護支援、通所介護、短期入所生活介護、養護老人ホーム、ケアハウス（一般型、介護型）、地域包括センター、保育園を併設している50年の歴史のある複合施設です。
----------------------------	--

＜取り組んだ課題＞

ご家族が面会に来た際に、精神的・肉体的に衰えた自分のご家族（利用者）とどう接していいかわからず、短時間の面会や、食事・水分の摂取を少し手伝うだけで、ご家族の居場所がなかった。ご家族によっては、手伝う意思はあるが、職員もお客様として対応していることもあり、どう手伝っていいかわからずにいた。

そこで、ご家族のいる場所を作り、さらにマンパワーと考え一緒に利用者を支援するように取り組んだ。

＜具体的な取り組み＞

- ・ 家族会にて、家族へのお手伝いをお願いした。
- ・ ご家族を行事や、レクリエーション活動に参加していただき利用者と接する時間を多くした。
- ・ 手伝っていただけのご家族には、食事介助配膳洗い物・たたみ物・季節の飾り作り等を積極的に手伝っていただき、他の利用者への理解もしていただいた。
- ・ ご家族によるボランティアの会を作り、ご家族主体のレクリエーション（喫茶店を平成20年9月より月に1回開催 喫茶中出し物として、歌、紙芝居、ピアノ演奏等して頂く。）を実施していただいた。

＜活動の成果と評価＞

- ・ ご家族が、施設に頻繁にいることにより、ご家族（利用者）が安心して生活することができ、レクリエーションが増えることにより、利用者全員の笑顔が増えた。
- ・ 面会の回数が増えることで、自分のご家族（利用者）と接する時間で、ご家族（利用者）の状態把握や、施設での生活・ケアワーカーの仕事を理解していただけだ。
- ・ 外部からの視線を意識して、職員がより丁寧に利用者者に接するようになった。
- ・ ご家族にレクリエーションの参加や、手伝いをしていただくことで、マンパワーとなり、より密に利用者者と接することができるようになった。
- ・ ご家族同士のつながりができ、要介護者がいるもの同士の悩みの相談ができた。
- ・ 退園された利用者のご家族がそのままボランティアとして協力してくださり、4世代にわたる交流ができた。

＜今後の課題＞

- ・ ご家族の意欲に充分対応できていない。
- ・ ご家族同士の関係性
- ・ 退園によるご家族の変化によつての、家族ボランティアの継続

＜参考資料など＞

聞いた人が、今後この事例と同様の取り組みを行おうとした時に、参考となる資料があれば記載して下さい。

【メモ欄】